

## (5) わくプロ研究交流会

- 概要： わくプロ研究員及び客員研究員によって、当プロジェクトの運営評価について協議し、課題の抽出および次年度計画案を作成した。
- 開催：
  - ・ 日時： ・平成20年1月29日（火）午後3時から午後5時まで
  - ・ 場所： 広島大学 教育学部 第一会議室
  - ・ 参加人数： わくプロ研究員・客員研究員・研究支援員8人
- 内容：

事務局より今年度の各事業の経過及び状況を報告し、課題と来年度への展望を議論した。

- ・ ジュニア科学塾・科学塾

本年はジュニア科学塾，科学塾をそれぞれのクラスを設定し，同時進行するスタイルで開催し，観察・実験内容はそれぞれに応じて設定し，場合によっては合同クラスで進行したことについて，メリットとデメリットを議論した。ジュニア科学塾は中学生対象，科学塾は高校生対象としているが，中学生でも希望によって科学塾に入塾可とし，数名の中学生が参加したことから，希望に応じる形での実施について意見交換を行った。

- ・ サイエンスレクチャー

福山の会場が校外の遠隔地であったため，中学生には交通の便などで難しいことがあり，中心部の会場を確保すること，広島と福山は基本的には同じ内容とすること等を議論した。

- ・ 執行体制

わくわくプロジェクト開始以来，事務局を担ってきた地域連携センターとプロジェクト研究センターと事務局のあり方と執行体制を来年度から，プロジェクト研究センターにプロジェクトリーダー的スタッフを置き，各活動のオルガナイズを任せる体制をスタートする件について議論した。当該リーダーの人は，センター長の林に一任。マツダ財団との顔合わせは3月上旬に行うこととした。地域連携センターは戸田センター長の見解をふまえ，社会連携の立場から来年度中は可能な範囲で引き続きサポートすることを確認。

- ・ わくプロウェブサイト

現状では運用が十分ではないことから，今年度内にトップページのデザインの変更と過去の資料も閲覧可能な内容を盛り込むよう内容の見直しを行うこと。そのための研究員として情報メディア教育研究センターの吉富健一助手に客員研究員就任を依頼することとした。

- ・ 小学校理科ネットについては，今年度試行してきた小学校を訪問して，教員対象

の実験講座を行う活動を来年度はさらに学校を増やし、内容も充実化する方向で取り組む方向で意見交換した。

- ・ 再来年度以降のわくプロのあり方について、ワーキンググループを設置して検討を行うことを確認した。

#### (6) わくプロ・ウェブサイト

わくプロの趣旨，事業概要を説明し，その活動状況を公表するための「わくわくプロジェクトの公式ウェブサイト」(URL : <http://www.wakupro.jp/>) を平成15年6月に開設し，現在運用中です。

サイトのトップページには，上記それぞれのページを作成し，情報発信，情報交換に活用しています。